I'm home.

no.121
JANUARY 2023
high end design
and lifestyle

平成14年12月24日 第三種郵便物認可 令和5年1月16日発行 年6回1・3・5・7・9・11月の16日発行発売 No.121
I'm home. 2023 JANUARY no.121別冊付録「COMPANY & BRAND RENOVATION GUIDE 2023」付き

DECORATIVE WALL
ウォールデザインを
楽しむ。
家具&マテリアル
55

別冊付録
COMPANY & BRAND
RENOVATION
GUIDE
2023

RENOVATION
新しい視点で見つめる、空間と物のリノベーション

育まれた思いと共に受け継ぐ。吉村順三の名作住宅
ライフステージに寄り添う設計アイデア集

WALL DESIGN
住まいのウォールデザインを考える

Case 4

I Residence (no.100に掲載)

Architecture : KONARA HOUSE
Owner Family : 夫(50代)　妻(50代)
長男(17歳)※掲載時

所在地／神奈川県藤沢市
構造と規模／SRC造　地上9階建ての一室
床面積／93.61㎡
※主な仕上げ材料と家具、設計者の連絡先は189頁に掲載

家族が集いやすいよう、妻の寝室だった小さな個室を撤去して、約40㎡に拡張した開放的なリビング＆ダイニングキッチン(CH2400〜2480㎜)。ベージュを基調にクラシカルモダンなテーストに仕上げている

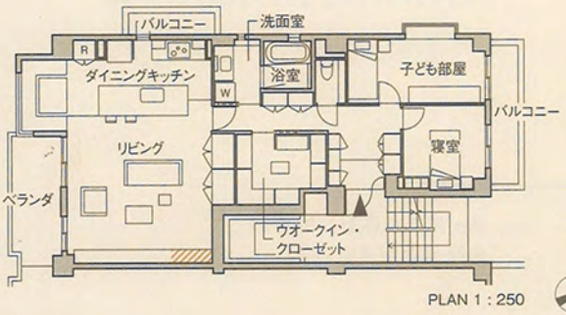
収納と一体になる家具で居場所を生む

両親から譲り受けた神奈川・藤沢のマンションに10年ほど暮らした一家。入居時に手を加えなかった水まわり設備の劣化が気になるように。それを機に、個室が多く閉鎖的だった住まいを開放的にするためリノベーションすることにした。

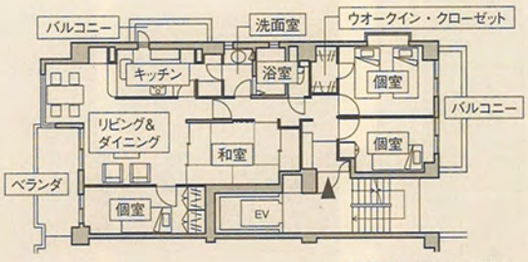
住まい南側は個室とキッチンの壁を取り払い、約40㎡のリビング&ダイニングキッチンに変更。セミクローズドキッチンがオープンになり、家族皆が集いやすい空間となった。一方、その北側は既存の和室を家族で共有する約5.5㎡のウオークイン・クローゼットに変更。各居室はクローゼットを設けないことで、十分な広さを確保した。「家族それぞれの寝室を確保したい」という希望から、リビングの壁面収納内に妻が就寝時に使うマーフィーベッドを採用。子どもが独立するまでの期間の就寝スペースとして、暮らしの変化を見据えながら空間を有効活用している。

Point
壁面収納と一体化した
就寝スペース

壁と同じベージュに塗装したリビングの壁面収納には、折り畳み式のマーフィーベッドを設置して妻の就寝スペースに。不使用時は収納にすっきりと収まり、リビングを広々と使える



PLAN 1 : 250



BEFORE PLAN 1 : 300